

て1名」に細則の規定を変更

「堀内基金奨励賞」

ア. 担当理事を設ける

「各賞」 ア. 技術賞(仮称)の設立の検討

イ. 「正野賞」の設立の検討

「国際学術交流」

ア. 募金活動の推進

「総合計画」 ア. 1990年 AGU 総会開催の協力の

検討

イ. 1993年 IAMAP の招致

「学術用語」 ア. 常設委員会は第24期をもって終了

イ. 将来の文部省の動きに対応できる体制

理事長挨拶

最後に山元理事長から第24期理事、監事の協力に対して感謝の意を述べられた。

## 関西支部第10回夏季大学の報告

日本気象学会関西支部主催の夏季大学は今年で10回目を迎えました。

大阪管区気象台をはじめ近畿2府4県と大阪市の各教育委員会から後援を得て、8月1日～3日の3日間大阪府立労働センターで開講しました。

受講生は47名(内訳は小・中・高校の教職員が全体の23%、学生14%、一般63%)で昨年に比べて受講生は約半数となりましたが、大阪管区・舞鶴海洋気象台から延べ8名の方々が聴講され、好評のうちに無事終了しました。

今回の全体テーマは“気象予報と防災(災害)―気象と生活―”で、過去の災害の例を上げながら、われわれが生活を営むうえで気象予報と防災・災害はどのようにかかわっているのかを理解していただくことを狙いとしました。

開講にあたり、村松久史支部長(京都大学防災研究所教授)が海外出張中のため、松崎理事(大阪管区気象台技術部長)が開講の挨拶をされました。以下、講義題目と見出しから内容をご推察願います。

### 第1日目

#### ○災害論『気象予報と防災の限界』―気象災害の変遷―

光田寧教授(京都大学防災研究所)

災害と対策、気象災害の特徴、災害の発生確率、気象災害の形態、災害の発生機構、災害を生じる気象的外力、気象災害の発生の確率、気象現象の確率、再現確率値の決定の問題点、防災対策。

#### ・大阪における水災害の歴史的変遷

河田恵昭助教授(京都大学防災研究所)

大阪平野の地形特性、大阪の氾濫災害の変遷、高潮・津波の極値統計解析の適用性。

### 第2日目

#### ○予報実習『天気図から何を読み取るか』

池田浩子報官・山本二郎予報官(大阪管区気象台)

地上天気図の理解と書き方、四季の天気図、自分でもできる天気予報。

### 第3日目

#### ○折々の注意報『注意報からみる暦』

中島肇予報官(大阪管区気象台)

大阪の四季、注意報の歴史。

第3日目の午後に当台現業3課の見学を1時間位で予定していましたが、昨年の見学中止のため受講生は非常に熱心で、専門的な質問も多く、30分ほど時間を延長しなければなりませんでした。

毎年、受講生を対象にアンケートを実施していますが、「今回の夏季大学全般にわたっての感想・意見」の設問で、①大学でも気象学を勉強したが、理論中心で、この講座のようなことは余りなかったため、いい勉強になった。②講義時間を延長して欲しい。③すばらしい講義だったのにもっと多くの人に勉強して欲しかった。など各講義とも概ね理解でき受講して有益とする回答が多く、全般に好評でした。また、次回の夏季大学の開催については、回答総数38人全員の方が開催したほうがよいという意見で、担当者には励みになるものです。

なお、今回の開催に当たりご協力いただいた多くの方々に深く感謝します。